

## 西大巖山スキー：浮遊感あるデープパウダーラン報告

【山城】 吾妻連峰:西大巖

【日程】 2020年2月2日(日)

【メンバー】 CL 菊池・SL 池田・石橋・渡辺(俊)・瀧瀬・会員外2名

【行程】

千葉—猪苗代 IC—グランデコススキー場駐車場—スキー場トップ—西大巖—東斜面滑走—南西ルート滑走—登山道ルート—デコ平—ゲレンデ—駐車場



・2/2 積雪 130 cmの西大巖に行ってきた。  
前日までの数日で 30 cm前後の降雪量であるが、スキー場の積雪は 120 cmから 10 cmしか増加していなかった。リフト下り場の入山口は賑わっていた。この日、山スキーヤーはまだ積雪不足を懸念してか、地元の方々と我々7人とその他数パーティであったが、ハイカーが多く入山していた。ここで以前チーム福島の森吉山山スキーで同行し



た WA さんのお会いし、さらに山頂直下で福島登高会の IZ さん P にもお会いし、いつものように狭い世界であると感じています。

- ・初めは藪がやや煩いが、間もなくこんな感じで十分滑走が楽しめる積雪量である。新雪も 30 cm~50 cm はあり、ディープパウダーランへの期待が高まってきた。寒気が残っていて天気は不安定。山頂に近づくにつれ、曇り・ガスで視界不良になってきた。西吾妻方面の山頂は雲では覆われている。



山頂直下の登山道ルートは急でそちらを進む先行者は苦勞しているがトラバースしながら左側から巻いて行くとオープン斜面が現れ、山スキーのシール登行ルートとしていつもこちらを選択するが。モンスターの発達が良好である。山頂直前で小生は東斜面を観察し、弱層をチェックしながら登頂した。視界不良の中、既に数人の滑走シュプールがあり、雪崩の心配はなさそうである。



- ・行動食休憩と滑走準備を手際よく行い、まず待ちに待った東斜面滑走のスタートである。30~50cm のやや重ディープパウダー、スタート直後の急斜面はバランスを崩さないように慎重に大回りターン、斜度が緩んできてターンし易くなり、雄叫びを上げながらリズムカルなテレターンをボトムまで続けた。視界は不良であるが、4年ぶりに東斜面の快適パウダーランであった。やや重のためフェイスショットとはいかないものの雪煙をあげ豪



快にテレターンを楽しむトシちゃんです。もう一枚トシちゃんの素晴らしいテレターンです。皆さん自然に雄叫びを発していました。



めきめきパウダーテクニック上達の TA さんも転倒せずボトムまで滑り込んだ。7人中5名がこの東大斜面の滑走は初体験、興奮気味にワンダフルを繰り返していた。福島登高会の3名もボトムまで滑り込み、わがPの7名を加え10名のシュプールでギタギタになってしまいました。





登り返しの最中、陽がさしてきたり、雪が舞ったりしたが、気分良い満足の一時であった。



- ・下山滑走ルートは南西~南ルート、標高 1350mでデコ平に向かう水平の登山道ルートに降り立つ予定である。現地で福島登高会の IZ さんより 1 週間前に同ルートを滑走したが下部はかなり藪が濃い、その後降雪があり、大丈夫であろうとのアドバイスを頂いた。まず、期待の山頂直下の南オープン斜面の滑走である。そこでゾンデで積雪を測定してみると 225 cmであった。スタート前の記念撮影です。滑りやすい雪質、気持ち良いパウダーランを堪能できた。立派なモンスター群をバックに安定した TA さんの滑りです。



IK君はカットビスPEED小回りターンに酔っていた。山頂直下の東斜面、登り返して今度は南斜面の両オープン斜面のパウダーランを終了し満足の記念撮影です。この後はわがPのみが滑走した南西ルートへ突入です。



南西方向にシラビソ林の急斜面を進みます。雪質が良くストレスは感じません。すぐにやや急なオープンスペースに出ます。上質のディープパウダーに大回りターンが決まりました。



斜度が緩みシラビソ林のなかに開けたスペースを物色しながら、出ている低木を避けな

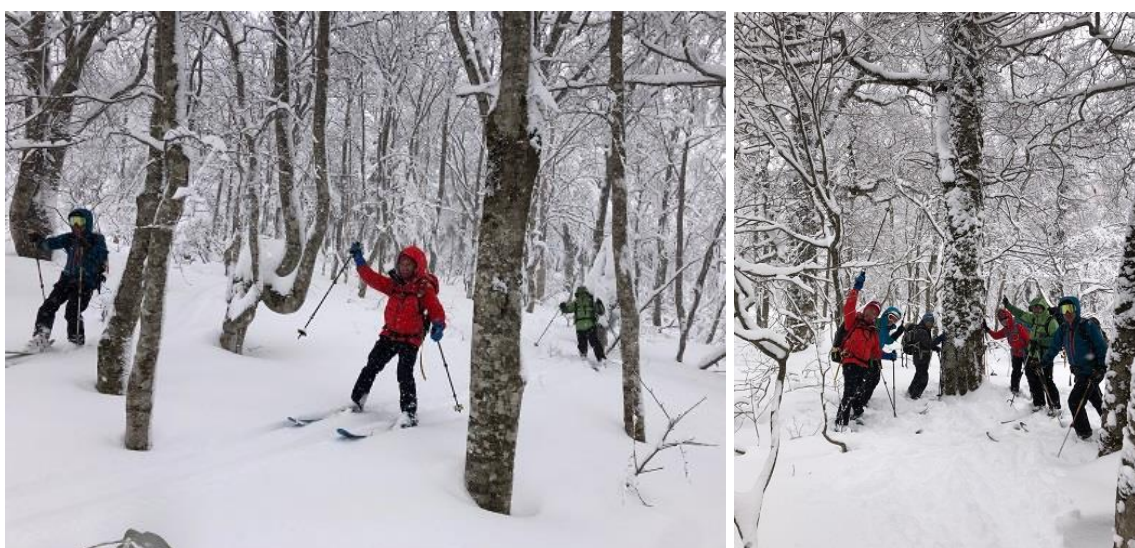




が楽しいツリーランが続きました。南西・南ルート配送長い距離滑走でき、適度に開けたエリアが多く、高いシラビソ林の中、上質のパウダーが温存され、浮遊感たっぷりのパツリーランが堪能できました。今シーズン最高のパウダーランを堪能できたメンバーは満面の笑みで一息入れました。



南方向に進路を変え徐々に藪が煩くなってくるが、癒しのブナ林帯に入ってきました。お化粧して綺麗になっているブナの巨木の下で記念撮影です。



標高 1350m 地点で無事登山道ルートに出ました。積雪が多い例年ですと、このルートで滑走する先行者もあるためトレースがあるが、今回、南西ルートに入ったのはわが P のみで、ラッセルしながら登山道ルートを進んだ。



デコ平からゲレンデに出る前は、青空の下、気持ち良いフィナーレであるが、沢を渡る橋にピンポイントで到達せねばならず、ルーファイが肝心であった。素晴らしいパウダーツアーを終え、一同大満足の日でした。

